

## 20年以上にわたり尽力 リサイクル品分別指導員5人を表彰

4月3日、リサイクル品分別指導員として通算20年以上尽力してきた5人への功労者表彰と、新たに指導員になる86人への委嘱状交付が文化会館で行われました。式終了後にはリサイクル分別に関する学習会も行われました。

【功労者（敬称略）】野邊真澄、嶋岡豪士、眞方國男、宮下範子、福永友明



令和3年度の小林市の家庭ごみリサイクル率は58%と全国トップクラス。リサイクル品分別指導員を含めた、私たち一人ひとりの努力が実を結びました

## 平和リースが救急車購入費用を寄付

平和リース株式会社（松田真義代表取締役）から西諸広域行政事務組合に高規格救急車購入費用の一部として1100万円が寄付されました。3月19日には同組合で感謝状贈呈式を実施。松田社長は「西諸地区の皆さんの命を1人でも多く救ってほしい」と話しました。



## JA こばやし 50年の節目に新たな道へ

3月28日、JA こばやし合併50周年とJA みやざき・こばやし地区本部発足の記念式典がありました。JA こばやしは昭和49年に4つの農協が合併して誕生。4月から県内13組織が「JA みやざき」へと合併することにあわせ、新たに「こばやし地区本部」となります。



## たくさんの思い出をありがとう 野尻幼稚園が半世紀の歴史に幕

3月26日、野尻幼稚園の閉園式が開かれました。閉園は、野尻保育園の認定こども園移行に伴い、同保育園に幼稚園機能が移管されることによるもの。野尻幼稚園は昭和48年に設置され、51年間で1400人以上の卒園生を送り出してきました。式には最後の園児となった4人を含む関係者約30人が出席し、園との別れを惜しまれました。



式の最後には園児たちが遠足や夏祭りなどの出来事を挙げ、「私たちの大好きな野尻幼稚園。たくさんの思い出ができました」と園での生活を振り返りました

## 子どもたちが健やかに育つ社会へ 九州北清株式会社が100万円寄付

3月26日、廃棄物処理事業などを行う九州北清株式会社（前野慶太代表取締役社長）が、市に100万円を寄付しました。寄付は平成25年度からいただいております今回で7回目。同社の意向により、寄付金は「小林市こども応援基金」に積み立てられ、子どもの貧困対策事業や少子化対策事業、子ども・子育て支援事業などに活用されます。



寄付贈呈式で前野社長は「日頃から地元の方々にはお世話になっている。未来を担う小林の子どもたちのために活用してほしい」と話していました

## 春の風物詩 まきばの桜まつり 多様な催しに幅広い年代が楽しむ

3月23日、「まきばの桜まつり2024」が開催されました。多様なステージイベントや物産展が並ぶさくら市、花の苗の配布などの催しに約2800人が来場。恒例の夜桜花火も実施され、夜空を彩る花火に会場からは歓声と拍手が起こりました。春先の気温が低かったことで桜は一分咲きながら、多くの家族連れが春の一日を満喫していました。



同日は、市内外のイベントなどで小林市の観光や魅力を発信してきた小林観光アンバサダーの宮野愛理さんと横山漱士郎さんの退任式も行われました

## 栗須保育園の引渡し式を開催 民営化後は認定こども園として運営

3月23日、4月からの栗須保育園民営化に伴い、移管先の（社福）こぼと福祉会（池上あずさ理事長）への引渡し式が開かれました。市議会の議決を経て、市と同法人は昨年10月に民営化に関する協定を締結。保護者会も含めた協議などを通じて移管準備を進めてきました。移管後も栗須保育園の名前は変わらず、認定こども園として運営されます。



藤崎美春園長から同園の鍵を受け取った湯田いずみ新園長は「伝統を受け継ぎ、子どもたちがのびのびと育つ安心安全な園にしたい」と話していました

## 「芝居は感情を再現すること」 市出身の俳優 翁さんの演技教室

3月20日、本市出身の俳優、翁 華栄さんの演技教室が中央公民館で開催されました。本市在住で同級生の小園和明さんが、翁さんに依頼し実現しました。開催は昨年引き続き2度目で、教室には小学生から大人まで男女11人が参加。参加者は、発声練習や体を動かしながら感情を表す練習などを行い、プロの演技指導を体験しました。



小学4年生まで本市で過ごしていた翁さん。俳優として映画「コンフィデンスマンJP」やドラマ「水戸黄門」に出演するなど活躍を続けています

## 災害時などの情報を空から収集 県内初の消防団ドローン隊が発足

3月21日、市消防団に県内初となるドローン隊が発足しました。隊員3人で市内企業の寄付金を活用し導入したドローン2機を運用し、行方不明者の捜索や災害時の情報収集などを行うことを想定。今後、特定の活動のみを行う機能別団員としてドローン操縦に特化した団員も募集し、減少傾向にある消防団員の確保にもつなげます。



隊長を務める川俣幸治さんは、以前から個人所有のドローンを活用し活動。「他の団員にも操作技術の訓練をしていきたい」と意気込みました

## 地域に愛され続ける西小林駅 95周年を祝い写真展を開催

昭和4年（1929年）に開業した西小林駅の開業95周年を記念した写真展が4月7日、西小林地区公民館で開催されました。これは石上義男さん（南西方在住）が地域の人に吉都線の魅力を知ってもらいたいという思いで企画したものです。

石神さんは30年以上前から趣味で風景写真を撮影。10年ほど前からは鉄道写真も撮影するようになりました。

中でも地元の吉都線の魅力に気付いた石神さんは、その知名度をあげたいという想いもあり活動を継続。「みんな灯台下暗しで魅力に気付いていない。京町から高原までの狭い範囲で見ても、季節に応じたさまざまな自然の風景が見られるんです」と吉都線の魅力を熱弁していました。

会場は石神さんが撮影した四季折々の吉都線の写真展示のほか、地元住民による手作りのがねや唐揚げの販売、新小林音頭の披露などが催され、多くの来場者でにぎわいました。



1 展示されたお気に入りの写真の前ではにかむ石神さん  
2 今年で開業95周年を迎えた西小林駅  
3 来場者に石神さん自身が写真の説明をする場面も

## エヒメアヤメの自生地を公開

3月・4月の開花時期にあわせてエヒメアヤメの自生地を公開する「エヒメアヤメまつり」が開催されました。



生駒地区にある自生地は南限地帯として国の天然記念物に指定されており、「エヒメアヤメを守り育てる会」が長年にわたって守り育てています。

## 小・中学校で活動するALTが表敬訪問

4月12日、市内の小・中学校などで活動するALT（外国語指導助手）が市長を表敬訪問しました。令和6年度は5人が活動。ルーツや経歴もさまざまな5人の活躍により、児童・生徒の外国語でのコミュニケーション能力の向上や国際理解の推進が期待されます。



## 市内12の小学校の子どもたちへ 市出身者からバッグのプレゼント

小林市出身で現在愛知県に居住している栗巣野勉さんから、市内の全小学校へバッグが寄贈されました。バッグを受け取った東方小2年の齊藤慶悟くんは「バッグをもらえて、とてもうれしかった。ゲーム機とかを入れたいです」、上原花那子さんは「筆箱とか勉強道具を入れて大事に使っていきたいです」と笑顔でよろこびました。



栗巣野さんから寄贈されたバッグは市内の全小学校12校に配布され、子どもたちの学習用具やおもちゃ入れなど、自由に活用されます



## 和牛・乳牛81頭、枝肉48頭が 出場・出品 小林市総合畜産共進会

4月5日、第19回小林市総合畜産共進会が小林地域家畜市場で行われました。肉用種牛の部4部門に65頭、乳用種の部4部門に16頭が出場し、肉牛は育成1類の谷之木輝喜さん、乳牛は経産牛4類の温水聖さんがグランドチャンピオンを獲得。4月3日に開催された肉用種枝肉の部では、48頭の出品の中から有限会社山五牧場がグランドチャンピオンを獲得しました。

Photo1 種牛の部グランドチャンピオン谷之木さん  
2 乳用種の各部門で優等1席を獲得した受賞者と関係者  
3 枝肉の部グランドチャンピオン山五牧場出品の枝肉切開図

### 結果(順位順・敬称略)

#### ■肉用種牛の部

- ▼育成1類=谷之木輝喜、中別府完爾、立山淳二
- ▼育成2類=下村美輝、脇屋敷翔、瀬崎直人
- ▼雌子牛=石橋秀人、鬼塚政治、寛春彦、脇屋敷まさ子、榎窪幸大
- ▼高等登録群(2頭セット)= 永久井博昭・永久井雅寛、下村

#### 美輝(特別賞)、立山健二

- 乳用種の部
- ▼育成1類=永田一成
- ▼育成2類=温水聖
- ▼育成3類=中村大輝
- ▼経産牛4類=温水聖
- 肉用種枝肉の部
- 有限会社山五牧場、元澤雄治、倉蘭忠、山下孝二、宮園雄二、小田孝一(脂質賞)

## 市民の生命・身体・財産を守る 小林市消防団入退団式を開催

4月7日、令和6年度小林市消防団入退団式が文化会館で開催されました。31人が退団し、新たに12人が入団。今年度は492人が消防団活動にあたります。入団者を代表して、第9分団第4部(野尻地区)富永大輔さんは「住民の生命、身体及び財産を保護し、郷土愛護の精神に基づき使命達成に努めます」と宣誓しました。



地域の消防防災のリーダーとして市民の安心安全を守るという重要な役割を担う消防団。式典終了後には今年発足したドローン隊の紹介も行われました

## 災害に強いまちづくりに活用 株式会社マキタ運輸が200万円寄付

4月5日、株式会社マキタ運輸(牧田信良代表取締役)が企業版ふるさと納税制度を活用して市に200万円を寄付しました。いただいた寄付は、同社の意向に基づき市の防災関連事業に活用されます。同社には、宮崎県トラック協会を通じて、令和6年能登半島地震で被災した姉妹都市能登町への支援物資輸送も担っていただいています。



牧田代表は「皆さんの想いを被災地に運ぶことができうれしい。小林の皆さんにはお世話になっている。寄付を役立ててもらえたら」と話していました